

わが国諸都市圏の地域構造について

秋田大学 正 員 清水浩志郎
秋田大学 正 員 木村 一裕
秋田大学 学生員 ○後藤 浩基

1. はじめに

戦後わが国の諸都市圏は、急激な経済成長とともに人口の都市集中が進んだ。しかし昭和40年代後半のオイルショックにより、都市圏の成長度合も次第にゆるやかになり、経済構造の変化を伴って、都市の衰退傾向¹⁾がみられるようになった。

本研究では、同様の成長を示した都市圏がその数十年後に異なった成長過程になったことに注目し、そのグループごとに産業、空間構造等の相違点を指摘し、成長の異なるに至ったその要因を明らかにすることを目的とする。

2. わが国における都市化の過程

都市圏の成長過程を昭和35年から40年まで（第一期）、昭和50年から55年まで（第二期）の都市圏の成長過程を（1）式で求まるR値で分析した。（図-1参照）中心都市、周辺地域ともに成長がみられた都市圏（A+型）は第一期においては57都市圏、第二期においては27都市圏と都市の成長度合が次第にゆるやかになったことがうかがえる。第一期においてA+型にあった都市圏は6つのグループに分類された。

（図-2、表-1参照）

$$R \text{ 値} = \left(\frac{b_{t1}}{b_{t2}} \right) \div \left(\frac{B_{t2}}{B_{t1}} \right) \text{ ---- (1)}$$

b_{t1} 、 b_{t2} ：地域iの時点t1、t2の人口

B_{t1} 、 B_{t2} ：時点t1、t2における全国人口

都 市 圏 の 人 口				
プ ラ ス		マ イ ナ ス		
中心都市のR値		中心都市のR値		
1.0以上	1.0以下	1.0以上	1.0以下	
A+	C+	---	C-	
B+	D+	B-	D-	

図-1 逆都市化現象都市圏判定法

3. 分類都市圏別地域構造の変容

本報告では、グループ別都市圏の人口規模、および産業構造を分析し、とくに産業面ではよりミクロ

に分析するために職業人口比率を用いた。この三つの分析より、6つのグループの特色をまとめると（表-2、表-3参照）

①I型：中心都市において、産業、空間面ではほぼ平均的な変動を示し、職業面においては、保安・サービスが唯一減少傾向を示している。また中心都市

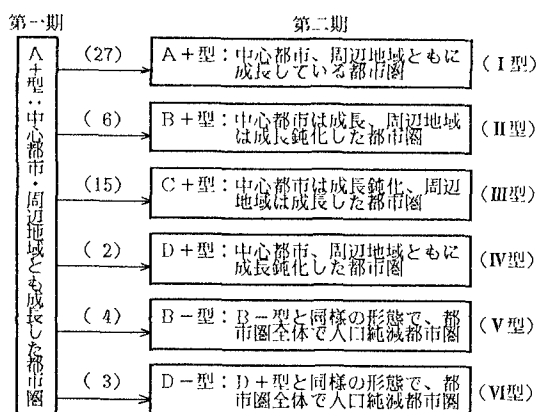


図-2 都市圏グループの設定と時系列的变化

表-1 分類都市圏名

I	札幌 高崎 豊田 熊本	帯広 大田 大津 都城	盛岡 横浜 広島 鹿児島	仙台 新潟 福山 鹿児島	石巻 新井 山口 徳島	水戸 長野 徳島 高知	土浦 浜松 高知 福岡	前橋 豊橋 福岡
II	苫小牧	秋田	宇都宮	千葉	富山	高松		
III	釧路 名古屋	日立 呉	熊谷 四日市	東京 京都	甲府 神戸	大垣 姫路	静岡 長崎	沼津
IV	小田原	津						
V	八戸	小山	岡山	徳山				
VI	岐阜	大阪	和歌山					

人口が50万人以上（昭和55年次）の地方中心都市が多く含まれている。

②II型：周辺地域において、第二次産業、管理、事務、技能工・単純作業などの増加が著しい。中心都市の第三次産業の伸びは相対的に鈍化しているもの

の、比率は高く、そのためか周辺地域の第三次産業の伸びが高い都市圏。

③Ⅲ型：大都市圏が多く、昼夜間人口比の伸びは高い。中心都市の技能工・単純作業では、減少傾向がみられる。周辺地域においては比率が高くなってきており、伸びは鈍化している都市圏である。

④Ⅳ型：中心都市では、保安・サービスが高い伸びを示し、逆に周辺地域では低くなってきた都市圏である。また運輸・通信は中心、事務は周辺での成長がみられない都市圏。

⑤Ⅴ型：中心都市において第二次産業、管理、事務、運輸・通信、技能工・単純作業が高い増加を示す。周辺地域では運輸・通信、保安・サービスが高い。しかし中心都市への流出、流入の伸びは低く、中心都市と周辺地域間の人口の流動が少なく、そのためか内動の減少度合も鈍い都市圏。

⑥Ⅵ型：技能工・単純作業は中心、周辺ともに減少度合が大きく、圏全体でブルーカラー層が減少している。専門・技術では、中心、周辺とも増加は高く、販売においては、中心の成長鈍化に対し、周辺地域の伸びが著しい。しかし第二次産業は中心、周辺ともに減少度合が大きく、また流出原単位の増加が著

しい。つまり、中心都市から周辺部への人口の流れの度合がさらに大きくなっており、このグループでは人口の集積は鈍化している都市圏である。

4. おわりに

本研究では都市圏の成長過程の中で成長から衰退への流れに注目し、異なった成長段階に入るまでの期間の産業、空間構造の変化を分析し、その類似点や相違点を把握することを目的とした。そしてとくにⅤ、Ⅵ型で特徴がみられたが、今後はより多様な面からの分析が必要であろう。

表－3 分類都市圏別職業人口比率

		I型	II型	III型	IV型	V型	VI型
		A+→A+	A+→B+	A+→C+	A+→D+	A+→B-	A+→D-
専門・技術	中心	6.8 9.7 42.6	6.9 9.8 42.0	5.6 9.1 62.5	6.6 10.6 60.6	5.7 8.3 45.6	4.7 8.2 74.5
	周辺	4.3 7.6 76.7	4.3 7.4 72.1	4.9 7.9 61.2	5.0 6.1 22.0	4.1 7.1 73.2	4.6 8.5 84.8
管理	中心	3.6 5.5 52.8	3.5 6.1 74.2	3.3 5.2 57.6	3.1 5.2 67.7	2.6 4.6 76.9	3.3 5.0 51.5
	周辺	1.6 3.4 112.5	1.4 3.3 135.7	1.9 3.8 100.0	1.9 2.7 42.1	1.5 3.2 113.3	2.7 4.5 66.7
事務	中心	16.2 18.2 11.7	17.0 20.2 18.8	14.4 17.8 23.6	15.4 18.8 22.1	12.4 15.5 25.0	14.1 16.5 19.9
	周辺	9.4 13.6 44.7	8.7 13.3 52.9	11.3 15.2 34.5	11.2 6.9 -46.4	8.7 11.3 29.9	13.0 16.5 26.9
販売	中心	14.6 16.3 12.1	13.8 17.1 23.9	14.4 16.5 14.6	13.3 14.5 9.0	12.9 15.3 18.6	16.3 18.3 12.3
	周辺	9.3 11.8 26.9	9.4 10.9 16.0	9.6 12.3 28.1	10.4 11.5 10.6	9.5 11.9 25.3	11.0 14.5 31.8
運輸・通信	中心	4.8 4.3 -10.4	5.2 5.1 -1.9	4.5 4.1 -8.9	4.6 3.7 -19.6	4.9 4.9 0.0	4.5 4.0 -11.1
	周辺	3.9 4.4 12.8	3.9 5.2 35.9	4.4 4.6 4.5	4.6 4.9 6.5	3.2 4.8 50.0	4.0 4.0 0.0
技能・単純	中心	31.3 30.1 -3.8	30.9 27.0 -12.6	41.9 34.0 -18.9	37.0 32.0 -13.5	30.4 32.2 5.9	41.4 34.9 -15.7
	周辺	27.5 33.5 21.8	25.3 33.4 32.0	33.1 36.8 11.2	25.8 33.2 28.7	28.8 35.8 24.3	43.2 35.4 -18.1
保安・サービス	中心	9.7 9.6 -1.0	9.3 9.7 4.3	8.9 9.6 7.9	7.8 9.6 23.1	9.4 9.4 0.0	9.2 10.0 8.7
	周辺	5.4 7.2 33.3	4.7 6.6 40.4	6.3 7.2 14.3	13.3 7.1 -46.6	4.1 6.6 61.0	6.0 7.1 18.3

表－2 分類都市圏別産業・空間構造

		I型	II型	III型	IV型	V型	VI型
		A+→A+	A+→B+	A+→C+	A+→D+	A+→B-	A+→D-
中心都市	第1次	31.7 29.9 -5.7	30.4 28.5 -6.3	40.5 35.6 -12.1	36.8 32.9 -10.6	29.9 32.1 7.4	42.6 36.2 -15.0
	第2次	56.0 63.4 13.2	56.0 66.6 18.9	51.0 60.8 19.2	50.9 61.4 20.6	48.3 58.0 20.1	50.9 61.1 20.0
周辺地域	第1次	27.2 34.0 25.0	25.3 33.7 33.2	37.4 38.5 2.9	24.7 31.2 26.3	28.2 38.1 35.1	42.2 39.0 -7.6
	第2次	34.2 47.6 39.2	31.6 46.3 46.5	35.9 49.1 36.8	47.6 59.1 24.2	34.0 44.6 31.2	42.6 51.5 20.9
流出	第1次	4.6 6.3 37.0	4.0 5.7 42.5	4.8 7.1 47.9	10.9 13.2 21.1	5.1 6.5 27.5	5.3 20.3 283.0
	第2次	11.0 12.6 14.5	10.3 11.8 14.6	10.5 14.8 41.0	15.4 21.4 39.0	11.0 12.4 12.7	15.3 23.3 52.3
内動	第1次	50.7 45.1 -11.0	50.2 47.1 -6.2	50.4 40.6 -19.4	44.3 43.0 -2.9	49.3 46.9 -4.9	51.5 40.1 -22.1
	第2次	6.4 6.2 -3.1	6.3 6.1 -3.2	5.8 7.7 32.8	4.5 8.2 82.2	5.9 5.9 0.0	10.0 3.0 -70.0

注) 単位(%)、上段:昭和40年、中段:昭和55年、下段:変化率

注) 単位(%)、上段:昭和40年、中段:昭和55年、下段:変化率